

関西学院大学LGBT調査



2015年4月27日～6月9日に

関西学院大学の在学生、大学院生、教職員（非常勤を含む）、卒業生を対象に【キャンパス内でセクシュアリティを理由にどのような状況で困難を感じているか】Web上のアンケート調査を行いました。総回答者111名のセクシュアリティは以下の通りでした。

表1:セクシュアリティの分類（当事者と非当事者のわけ方）

	当事者(58)								非当事者(53)	
出生時	女性(35)				男性(23)				設問11のカミングアウトの人数をきく設問にて「当事者ではない」を選択した人で分類をしています。また「わからない」と回答した人も含まれる場合があります。	
性自認	女性		男性	X/他	男性		女性	X/他		
性的指向	女性	両性性別を問わない	その他		男性	両性性別を問わない	その他			
	レズビアン女性	バイセクシャル女性	その他女性	FTM	FTX/他	ゲイ男性	バイセクシャル男性	その他男性	MTF	MTX/他
	7名	18名	2名	2名	6名	13名	4名	3名	1名	2名
	53名									

非当事者(異性愛者など) 53名

----以下、当事者58名(内訳)----

レズビアン女性 7名

その他(アセクシャルなど) 男性 3名

バイセクシャル女性 18名

MTF(男性から女性への生き方をする人) 1名

その他(アセクシャルなど) 女性 2名

MTX(主に男性から性別を問わない生き方をする人) 2名

ゲイ男性 13名

FTM(女性から男性への生き方をする人) 2名

バイセクシャル男性 4名

FTX(主に女性から性別を問わない生き方をする人) 6名

Q.広報はどのようにしたの？

以下の手段で広報を行いました。

大学の教学Webサービスの掲示板

関学レインボーウィークのtwitterアカウントから告知

調査協力のためのチラシの配布

関学にある性的マイノリティサークルへ調査協力の告知

LGBTに関する講演会での口頭による告知



ご協力いただいたみなさま、ありがとうございました。

尋ねたこと①

調査では、「学生から性別、性的指向、性自認を嘲笑されるような言動をご自身が体験したり、見聞きしたりしたことはありますか？」という設問のもと、

「よくある」から「全くない」の4段階評価と、自由記述欄を設けました。

◆自由記述の内容（抜粋）

交流会や飲み会の場、時には授業中のトークでホモネタや女装で笑いを取る、またそのような発言に対して、「お前ホモかよ」「俺(私)、女の子(男の子)好きやのに誤解される」等の発言は何度となく聞いてきた。(Ftx/卒業生)

私の彼氏はFTMなのですが、その事を仲の良い友達に話した時、全否定されたこと。
(非当事者女性/学生)

彼氏(周りには秘密にしている)と友達数人と話しているときに、彼氏と行ったカフェの話した時に「お前らゲイかよー(笑)」と言われてドキッとした。バレるのは本当に怖いです。
(ゲイ男性/学生)

友人同士で恋愛話をしてる際に(友人達は私の性的指向を知らない)「彼氏できなさすぎて、同性に走ったらビーチヨー」と一人が言い出し、その場自体が話題に同調してみんなが笑うような空気になった。
(レズビアン女性/学生)

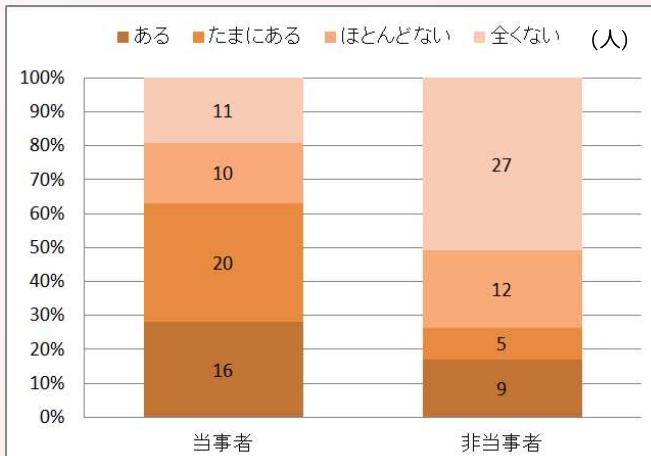


図1:学生からセクシュアリティを嘲笑する言動の体験や見聞きの有無
(当事者の回答者数57名、非当事者の回答者数53名)

次に、「教員(または職員)から性別、性的指向、性自認を嘲笑されるような言動をご自身が体験したり、見聞きしたりしたことはありますか？」という設問のもと、「よくある」から「全くない」の4段階評価と、自由記述欄を設けました。

◆自由記述の内容（抜粋）

授業中に僕はゲイじゃないと笑いながらネタにするように言っている男性教員がいました。
(バイセクシャル女性/学生)

授業のたとえとしてオカマなどが用いられる
(ゲイ男性/学生)

教員控え室で休憩時間に雑談中、
その場にいない人の噂話にともなって「あの
人、コレっぽい」という発言があり、片手の
手のひらを頬の下でくねらせる動作を見た。
(バイセクシャル女性/教員)

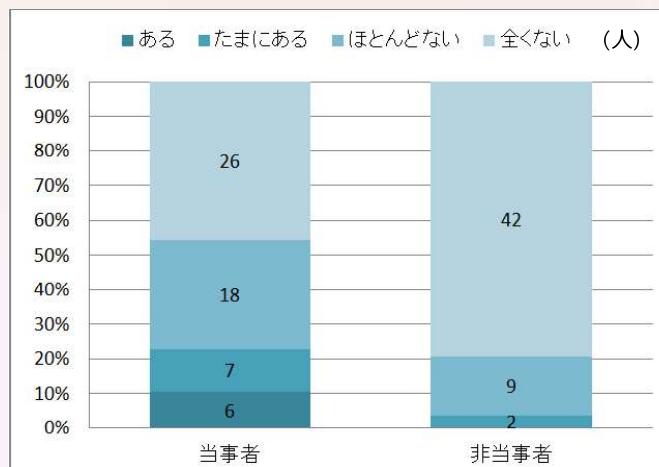


図2:教員または職員からセクシュアリティを嘲笑する言動の体験や見聞きの有無
(当事者の回答者数57名、非当事者の回答者数53名)

これらの結果で特徴的なのは、当事者の方が非当事者より
そうした言動を体験したり見聞きした割合が高いということです。
つまり、そうした言動がキャンパス内で行われているにも関わらず、
非当事者には気づかれず、見過ごされてしまっている可能性が高いことを表しています。

尋ねたこと②

次に、「その他、性別、性自認、性的指向を理由にあなたが経験した大学内の問題、困難、不安などがあわば教えてください」という設問のもと、場面の選択欄と、自由記述欄を設けました。

表2:性別、性自認、性指向を理由とした大学内の問題、困難、不安など

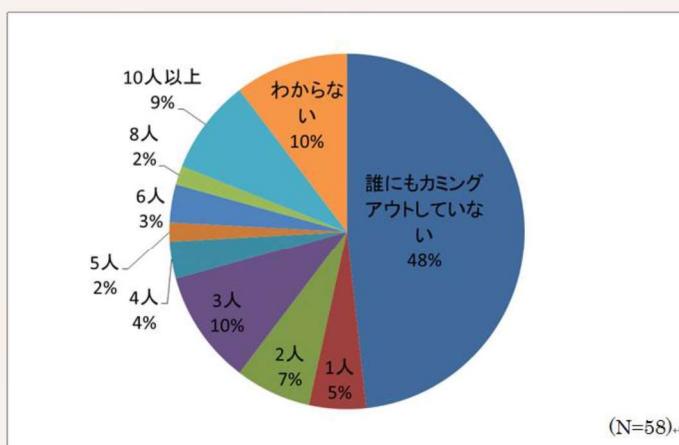
	大学の授業	就職活動	バイト・就職先など	サークル・部活動	健康診断	その他	特にな い	無 回 答	合計
当事者	3人 (5.1%)	7人 (11.9%)	4人 (6.8%)	9人 (15.3%)	1人 (1.7%)	7人 (12.1%)	27人 (46.6%)	0人 (0%)	58人 (100%)
非当事者	2人 (3.8%)	6人 (11.3%)	0人 (0%)	1人 (1.9%)	1人 (1.9%)	2人 (3.8%)	39人 (73.6%)	2人 (3.8%)	53人 (100%)

結果、セクシュアリティを理由に経験する問題、不安、困難は
キャンパスライフのあらゆる場面で経験している（しゅる）ことが明らかになりました。

尋ねたこと③

続いて、当事者に対して「あなたは（関学内で）、
LGBT当事者以外の人に何人カミングアウトしていますか？」という設問を設けました。

結果、キャンパス内でWeb調査に回答していただいた当事者では、
**半数(48%)の人たちが当事者以外の人たちに
カミングアウトしていない状況がわかりました。**



	実数	%
誰にもカミングアウトしていない	28	48%
1人	3	5%
2人	4	7%
3人	6	10%
4人	2	4%
5人	1	2%
6人	2	3%
7人	0	0%
8人	1	2%
9人	0	0%
10人以上	5	9%
わからない	6	10%
合計	58	100%

※キャンパス内で誰にもカミングアウトしない（できない）学生が半数近くいることがわかります。

まとめ

Web調査の結果からは、性的マイノリティを理由に被る困難やハラスメントがキャンパス内において学生あるいは教職員によって日常化されていることがわかりました。大学の授業を含めたキャンパスライフの中での性的マイノリティという属性そのものの否定や嘲笑やハラスメント的な発言は、当事者学生から安全な教育・課外活動の環境を奪い、本学が教育機関として責任を十分に果たしていないことを表しています。また、当事者と非当事者のあいだでは、何が嘲笑的な発言かについての認識の差があり、非当事者が意図せずして当事者を傷けていることが自由記述などから見て取れました。こうした現状を改善していくには、全教職員に対して性的マイノリティに対する理解を促す研修などを設ける必要があるでしょう。多様な性のあり方を個人的に支持する・しないではなく、本学で学び、働く人たちの人権擁護という視点から、対人関係上で必要な最低限の知識を身に着け、ハラスメントが行われない「安全な学習または労働環境」を構築していく必要があります。